

〔第一回社会運動ユニオニズム研究会（〇九〇四〇三）総評会館〕

米国左翼労働運動としての社会運動ユニオニズム

篠田徹（早稲田大学社会科学総合学院）

【あ】労働運動の伝統史観と米国労働運動の循環史観

【い】米国左翼労働運動の二戦略（戦闘的・急進的労働運動を如何につくるか）

一）二重組合主義（Dual Unionism）

IWW（1900s・AFLに対抗）※、Trade Union Unity League※

（1930s前・米共産党三期論）、Progressive Party（1940s後・冷戦開始）※、
Student for Democratic Student & Black Panthers（1960s）、

二）内部穿孔主義（Boring From Within）

ヘイマーケット事件（1880s・労働騎士団）、全米鉄鋼スト（1919・戦闘的
AFL）※、Trade Union Educational League（1920s前）、CIO（1930s後半・
人民戦線）※、Radical America（1970s後・社会運動ユニオニズムの培養）

〔ジェームス・グリーン著（篠田徹訳）『歴史があなたのハートを熱くする』
第一書林（二〇〇三年）〕

※W. Z. Foster（労働運動を社会運動へ繋げ左派と中道左派を結ぼうとした）と
Bill Fletcher, Jr., & Fernando Gapsin, Solidarity Divided, University of
California Press, 2008.のゴンパース派、現実派、左派のダイナミズム論

【う】ルーズベルトのニューディールとオバマのニューディール

一）産業復興法七条 A 項から社会保障法そして労働関係調整法へ

中産階級タスクフォースから医療保険法そして従業員自由選択法へ？

二）オバマのリンカーン以来の労働中心社会観と積極的労働運動観

三）現下の労働戦線再編を巡る「CIOを導いた下からの組織化」「CIOを上
からの社会的主流にした上からの組織化」「CIOの横で組織化したAFL」

【え】米国左翼労働運動（特に内部穿孔主義）の存在意義

運動文化（異なる立場にある社会的弱者が直接・間接の多様な共同・協
働体験を通じて別の世界観と新たな集合的アイデンティティを獲得する
生活様式）工作と初期CIO、高野総評の類似性

〔篠田徹「“企業別組合を中心とした民衆組合”とは（上）（下）」

『大原社会問題研究所雑誌』五六四、五六五号（二〇〇五年、一一、一二月）〕